

南海トラフ地震を想定した防災訓練を実施します(報道公開)

名古屋高速道路は、愛知県及び名古屋市の地域防災計画において救援物資などの輸送を担う第一次緊急輸送道路に指定されており、南海トラフ地震など大規模災害の被災時には、迅速かつ確実な道路機能の応急復旧が求められます。

今般、被災時における対応力の向上を目的として、災害時に使用する特殊機材を用いた道路啓開の実践的な防災訓練を実施しますので、お知らせします。

なお、今回、公社の訓練としては初めて、災害協定を締結している関係機関の車両による走行訓練を実施します。



《ジャッキによる放置車両移動》



《軽量渡し板による損傷の応急復旧》

1. 日 時

2026年5月19日 (火) 14:00~15:00

2. 場 所

名古屋高速道路公社 船見基地 (名古屋市港区船見町1番地の128)

3. 訓練概要

- ・職員及び維持業者等が特殊な資機材を使用して、放置車両の移動及び伸縮装置部に生じた段差等を解消し、緊急車両の通行ルートを早期に確保するまでの応急復旧作業を実施します。
- ・災害協定機関の車両による応急復旧箇所の走行訓練を実施します。

4. 訓練参加者

名古屋高速道路公社、交通管理隊、蔦井(株)(土木維持業者)、電力・通信系の災害協定機関*

5. その他

実働訓練の当日取材をご希望の方は、5月18日(月)15時までに広報課(TEL:052-919-3236)までご連絡ください。

※ 中部電力パワーグリッド(株)、KDDI(株)、ソフトバンク(株)、関西電力送配電(株)、NTT西日本(株)、(株)NTTドコモ

防災訓練の概要

訓練内容

ジャッキによる放置車両移動

放置車両が緊急車両の通行を妨げている状況を想定し、これを解消するために限られたスペース内で作業をすることができる特殊なジャッキを使用します。

各タイヤに1台ずつジャッキを設置し車体を路面から浮かせ、車両を人力で移動させます。

(平成26年の災害対策基本法の改正により、道路管理者の権限で道路上に滞留する一般車両を移動させられるようになりました。本訓練では、同法に基づく手続についても実演します。)



《ジャッキ（機械式）》

○重量：約20kg/台



《ジャッキ設置》

○対応可能車両：約3t車まで



《車両移動（2025年度）》

軽量渡し板・軽量スロープによる開き・段差応急復旧

桁と桁の間には伸縮装置がありますが、伸縮装置部に生じた段差・開きにより車両が通行できない状況を想定し、これを解消するため、“人力で速やかに運搬・設置が可能”な軽量渡し板、軽量スロープを使用します。

＜軽量渡し板＞



《設置状況》

- 重さ
約30kg/枚
- 規格
FRP製（せん維強化プラスチック）
- 通行可能車両
大型車両10t車程度まで

＜軽量スロープ（EPSスロープ）＞



《設置状況》

- 重さ
約30kg/部材
- 規格
発泡ポリスチレン
- 通行可能車両
大型車両10t車程度まで

